



神野義孝 議員
| 市民21 |

地域の防災活動を前進させるための組織づくりについて

問 阪神・淡路大震災では、被害者の救出・救助に当たったのは、8割近くが近所や家族だった。東海地震などにより大きな被害が予想される本市における、自主防災活動は大きな意義があるが、各自主防災会の取り組みの格差は大きい。そこで、各自主防災会の格差をなくす組織づくりについて伺う。

薦者を中心に、91人の応募があり、81人が防災士試験に合格し、現在63名が日本防災士機構に登録され、本市の登録者は全部で256人となった。

問 養成した地域防災指導者を活用した組織づくりは、

答 すべての自主防災会の強化、底上げが市全体の強化につながる。地域の防災指導者や防災士を対象に、フォローアップ研修により更なる能力の向上と相互の連携強化を図る。平成25年度は年3回、自助共助に必要な各種指導要領等の研修を予定。将来的には、地域の防災指導者を含む防災士を組織化し、防災の専門組織としての活動を通して自主防災会に対するきめ細かな指導のできる人材を養成したい。

問 本市における自主防災会の防災訓練の状況及び課題は。

答 平成24年度の地域防災訓練の参加率は約28%で50%以上が7区、10%台が9区で参加率や訓練内容等取り組みの格差が大きい。

問 平成24年度の地域防災指導者養成講座の成果は。

答 自主防災会活性化の指導者養成を目的に講座を開催し、受講者は、自主防災会からの推



市民の命を守る自主防災活動



本多丞次 議員
| 創成 |

安心安全なまちづくりについて

問 歩車分離式信号機の設置による、歩行者の安全確保と交通の流れの変化について伺う。

答 歩車接触の危険性が減ったが、横道にそれる車両があり歩道整備や安全確保の必要性がある。

問 自転車の乗り方マナー向上の取り組みについて伺う。

答 マナー啓発機会を増やす。要案があれば自転車教室を開催する。

問 道路整備における安全なまちづくりのビジョンについて伺う。

答 バリアフリー基本構想に基づき高齢者や障がい者、歩行者の安全が向上していくよう歩道整備を重視し順次整備を進めていく。

問 警察との連携については。

答 今まで以上に連携を密にし、市民の安全を最優先とした

上で警察当局への申し入れ等必要な措置を講じていく。

若者の活性化・ネットワーク化の方策について

問 若者を対象とした事業内容と成果について伺う。

答 青少年活動推進委員会を中心に、青少年向けの事業の企画運営、支援を行っている。成果としては駿東地区青年教室等を実施し、教室終了後もネットワークづくりにおいて一定の成果があるが、参加者が少ないのが現状である。

問 若者の活性化という視点で、今後の事業展開を伺う。

答 行政の取り組みや、地域に對し関心を持ってもらえるよう情報発信手段を検証し、若者同士の生きたネットワークづくりを進め、積極的に情報発信を行い若者の活性化につなげていきたい。



御殿場で初めての歩車分離式信号の設置（湯沢交差点）